



7月度の
の御書

うえのどのごけあまごへんじ
「上野殿後家尼御返事」
じごくそくじゃっこうごしょ
 (地獄即寂光御書)

意味
 植物の「あい」は、その葉で何回も染めれば、いよいよ青くなります。法華経も「あい」のようなものです。修行が深まるというのは、ますます青くなるようなものです。

御文
 あいは葉のときよりも
 なをそむれば・いよいよ
 あをし、法華経はあいの
 ごとし修行のふかきは・
 いよいよあをきがごとし
 (御書1505ページ)

しょうねんしょうじょぶ
少年少女部のみんなこそ、未来の主演、

やあ！ ボクはライオン博士のキング君。外では太陽の光をあびて、木々の葉っぱが生き生きとしげり、かがやいているね。今回は、そんな「葉っぱ」のお話から始めるよ～！

御文に出てくる「あい」というのは、少し青みがあった、緑色の葉っぱをつける植物のこと。

この「あい」の葉っぱをつぶしてしぼった液に、まっ白な布や糸をつけると、きれいな青色に染まるんだ。緑の葉っぱから青く染まるってふしぎだね！

さらに、このしぼった液につけるという作業を何回もくり返すと、この青色は、どんどんあざやかで、きれいになっていくんだよ。

くり返し染めることで一段とあざやかな青色になる。このことを通して日蓮大聖人は、信心も同じように、挑戦し続けることが大切だと教えられているんだ。

お題目を唱えたり、御書や池田先生のご指導を何度も学んだり……。そういう信心の挑戦をくり返すことで、自分の「勇気の心」「やさしい心」「負けない心」が、どんどん強く、大きくなっていく。これを「従藍而青」っていうんだ。「青は『あい』よりも青い」という意味だよ。

この「従藍而青」には、もう1つ大事な意味があるんだ。それは「後を受けつぐ人、が、先の人、よりもすばらしい人になる」という意味だよ。

師匠よりも弟子が、親よりも子どもが、先ばいよりも後はいが……。それぞれ、さらに「偉大な人、立派な人、に成長していくってことなんだ。

この言葉のように、師匠である戸田先生の心を受けついで、世界中に平和と友情のきずなを広げてくれたのが池田先生だよ。そして池田先生の心を受けついで、未来の舞台上で活やくする主演こそ、少年少女部のみんなだよ！

池田先生は、みんなの成長を見守りながら、エールをおくられているよ。

「私にとっては、未来部の皆さんが『従藍而青』の直弟子です。ゆえに、君たちよ！ 偉くなれ！ 断じて偉くなれ！ 強くなれ！ 徹して強くなれ！ そして羽ばたけ、広い世界へ！」

さあ、この夏もお題目を唱えながら、夢に向かって自分らしく、努力と挑戦の一日一日を進んでいこう！